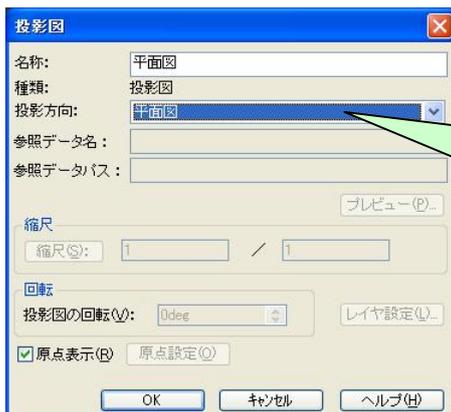
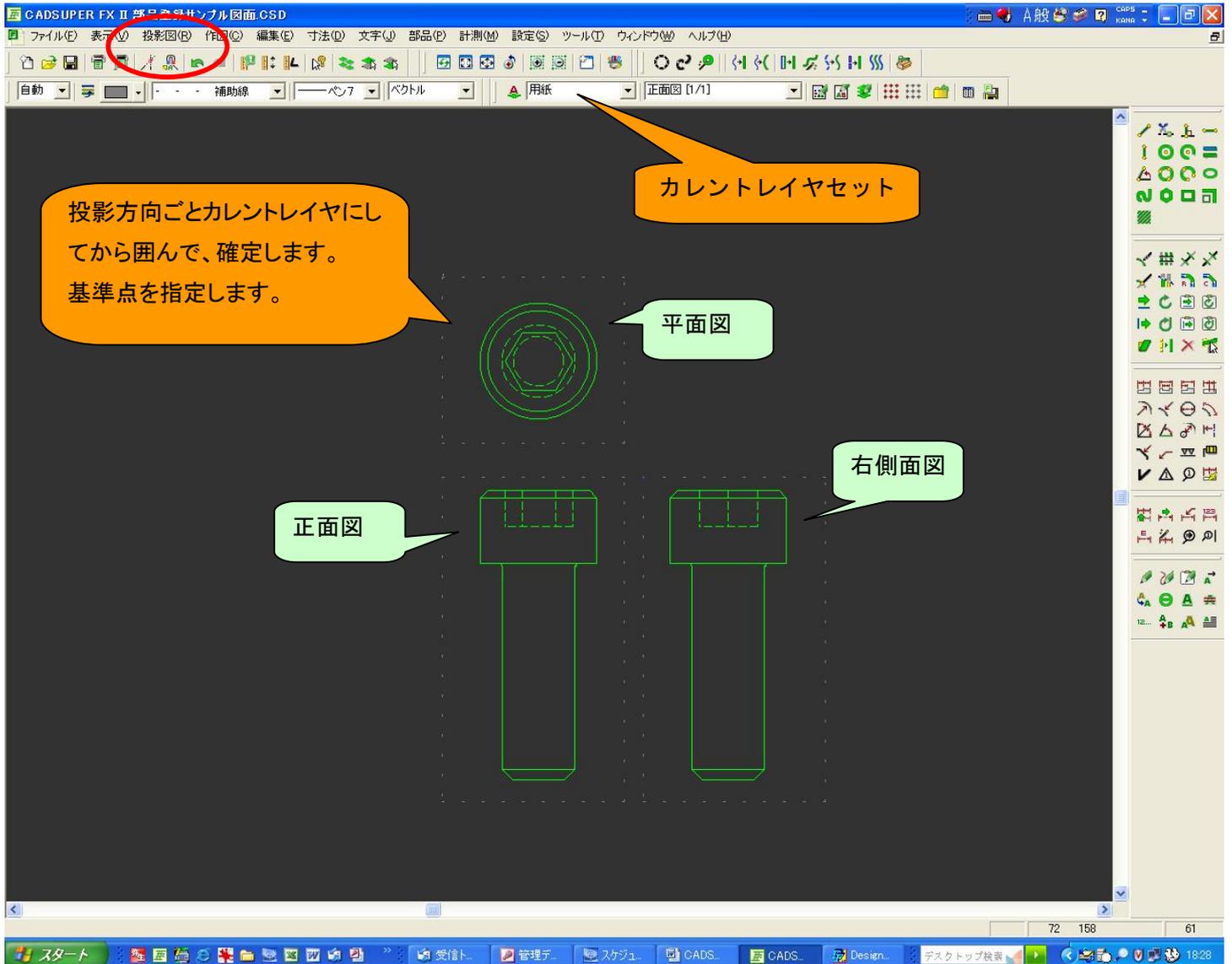


FX II 投影図を利用したの部品保存

部品図に異なる投影図方向の形状を持たせ、適切な方向の部品配置することが出来ます。もちろん、配置された部品は同じ種類の部品として集計されます。

1. 新規で図面を開きます。(投影図レイヤセットがない状態でしたら、図面枠はあっても、なくてもどちらでも可)
2. 部品化したい形状を作図します。
3. 投影図を作成します。

部品図面を作成する為に投影図を作成します。[投影図]-[新規]でまず平面図、正面図を定義しましょう。

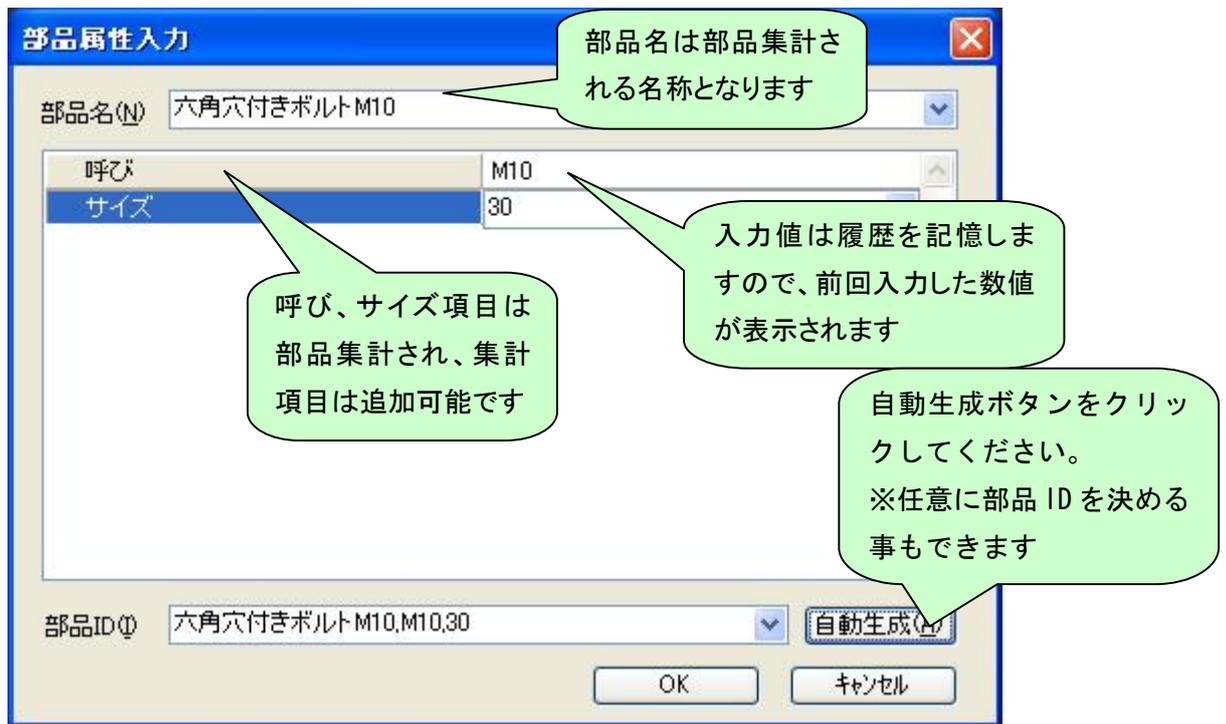


投影方向を選択すると、名称欄には自動的に同じ名称が入力されます。

※ 名称には重複名称は使用できません。

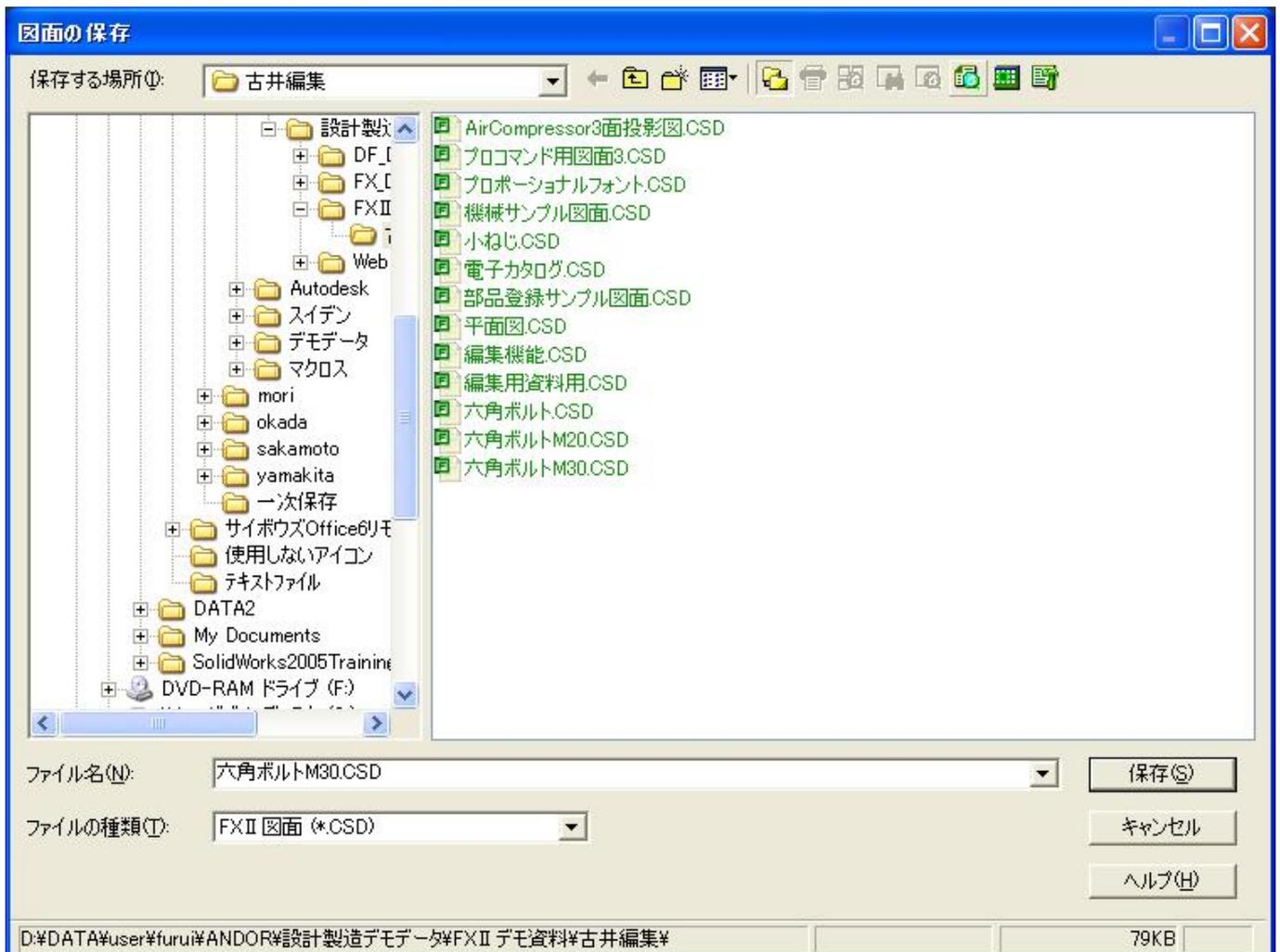
※ 任意で名称をつけることもできます

4. 部品図面を登録します。[部品]-[作成]-[部品図面保存]を選択します。



5. 部品図面名称(ファイル名)を登録します。

ファイル名は同一フォルダ内には同じ名前は追加できません。(上書きされますので注意してください)
また、ファイル名はわかり易いものにと部品図面ファイル指定するとき便利です。



部品図面名称(ファイル名)を登録完了。

既存図面に部品を配置してみましょう。

ここでは、部品図がいろんな投影方向の形状をもち、いろんな方向や角度、スケールで配置する練習をします。

6. 既存図面を開きます。
7. 次に先ほど作成しました部品図面を開きます。ここで、正面図、平面図を配置方向を指定します。
8. [部品]-[挿入]コマンドを選択、平面図を配置します。

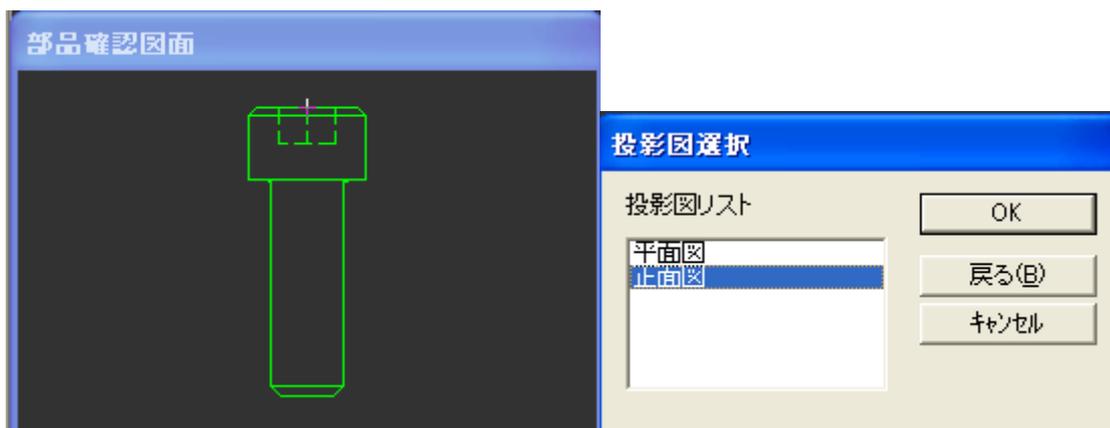
コマンドモードで状況にあったモード設定を選択してください



9. 投影図リストが画面に現れます。配置したい方向を選択します。



2-4 オペレーションバックし、次に正面図を配置します。



[部品]-[シンボル挿入]の違い

倍率指定したい場合などに使用します。

材料取りありなしの指定が出来ません。集計数の指定が出来ません。

部品の上下順位が指定出来ません。



※どちらの部品挿入機能でも部品表の集計対象になります。